

野生動物でのオーエスキー病ウイルスの異種間伝播

南 昌平¹⁾ 横山真弓²⁾ 石嶋慧多¹⁾ 下田 宙¹⁾ 栗原里緒³⁾宇根有美⁴⁾ 森川 茂^{4),5)} 前田 健^{1),5)†}

本文はこちら

- 1) 山口大学共同獣医学部 (〒753-8515 山口市吉田 1677-1)
- 2) 兵庫県立大学自然・環境科学研究所 (〒669-3842 丹波市青垣町沢野 940)
- 3) 麻布大学獣医学部 (〒252-5201 相模原市中央区淵野辺 1-17-71)
- 4) 岡山理科大学獣医学部 (〒794-8555 今治市いこいの丘 1-3)
- 5) 国立感染症研究所獣医科学部 (〒162-8640 新宿区戸山 1-23-1)

(2021年6月28日受付・2022年1月11日受理・2022年2月15日公開)

要 約

2016年、近畿地方で2頭の死亡したアライグマが発見された。これらアライグマからオーエスキー病ウイルス (PRV) が分離された。分離されたウイルスの全ゲノム配列を解析した結果、国内で使用されているワクチン株にはない gE 遺伝子を保有しており、野外株であることが判明した。同地域のイノシシ 111 頭とアライグマ 61 頭の血清について PRV に対するウイルス中和試験を実施した結果、13 頭のイノシシが抗体陽性 (11.7%) となり、アライグマはすべての個体で陰性であった。死亡したアライグマの発見地域は養豚場における PRV の清浄地域であり、イノシシからアライグマへの PRV の種間伝播が強く疑われた。以上より、本報告はアライグマにおける初の PRV 自然感染例であり、イノシシから異種動物へ致死的な感染を引き起こす可能性が明らかとなった。

——キーワード：種間伝播，オーエスキー病ウイルス，アライグマ，イノシシ。

-----日獣会誌 75, e29～e35 (2022)